

危機管理マニュアル

●こどもの単独行動禁止

山梨での女兒失踪事件のように、人が多くいる場所で、数分のわずかな距離を歩いただけで行方不明になる可能性もあります。はるの山の村も近隣に民家等はなく、施設はとても広く、周囲に崖もあり、道に迷いやすいので、少しの距離であっても絶対にこども一人で行動させることのないようにしましょう。敷地内は砂利道のみ、敷地外は舗装道路になるため、舗装道路へ出ないようにする。

●川遊びでの注意

- ・ライフジャケットを必ず着用させる（サイズや着用方法が間違っていると意味がないため注意）
→たまに嫌がる子がいるが着用しない限りは絶対に川遊びをさせない
- ・足がつく浅い場所でもパニックになる事で溺れることはある（浅くても油断しないようにする）
- ・溺れてパニックになった人を助けると、掴まれて助けた人まで一緒に溺れてしまう事があるため、ロープを投げる、ライフジャケットを着る等して二次被害を防ぐ
- ・物が流れた場合はこどもが取りに行くと怪我や流される危険があるため必ずスタッフが対応する
- ・石投げは過去に2回事故が起きているため（うち1回は前歯欠損）、人が居ない方向も含めて一切禁止。発見した場合は厳しく注意する（注意しても聞かないこどもは次回以降参加はお断りします）
- ・自分が遊ぶことに夢中になり過ぎず、常に周囲に目を配り、危険なことをしている子はいないか、溺れそうな子はいないか注意する
- ・周りのスタッフの配置を見て、スタッフの少ないところへ移動する
- ・川遊び中は暖かいと眠くなるが、川原でウトウトしない（眠い時は水を被って目を覚ます）

食中毒予防

食中毒菌は、栄養・水分・温度の3条件が揃うと時間とともに爆発的に繁殖する。原因となる細菌の多くは20°Cで活発に増殖し始め、体温ぐらいの温度で増殖スピードが最も速くなる。そのため、この温度帯を避け、細菌の増殖スピードが抑えられる低温か、死滅が始まる高温帯で保管することで細菌増殖を抑制することができる。

★低温で保存

細菌の多くは高温多湿な環境で増殖が活発になるが、10°C以下では増殖が遅くなり（冷蔵庫でも完全に止まる訳ではないことに注意）、-15°C以下では増殖が停止する。

★加熱処理

ほとんどの細菌やウイルスは加熱によって死滅するため加熱して食べる。特に肉料理は中心までよく加熱することが大事（中心部を75°Cで1分以上加熱）。布巾やまな板・包丁などの調理器具にも細菌やウイルスが付着するので、特に肉や魚・卵などを使った後の調理器具は洗剤でよく洗って熱湯をかけたり漂白剤で殺菌する。

★加熱後の冷却

細菌は30~40°Cで最も増殖しやすく、加熱した食品をそのまま冷却すると細菌が増殖する恐れがあるため、細菌が増殖しない温度まで素早く冷却する必要がある。

- ・小分け冷却：カレー等の鍋物は小さく小分けして温度が下がりやすくする
- ・流水冷却：野菜を蒸したものの、茹でたパスタなどは水で冷却する

キャンプでの注意

- ・BBQでは十分に火を通す（特に鶏肉など中心に火が通りにくい肉）
- ・調理後すぐ食べられない場合には温度が下がる前に温め直して60°C以上を維持する
- ・肉や魚は細菌だらけであることを念頭におき、周囲に細菌が広がらないように注意する
- ・残った食材はできる限り食べきり、長時間放置されていた物はもったいなくても捨てる



知っておきたい食中毒の主な原因

腸管出血性大腸菌（O157 など）

食肉などに付着し、肉を生で食べたり、加熱不十分な肉を食べることによって食中毒を発症する。乳幼児や高齢者などは重症化し、死に至る場合もある。

原因：加熱不十分な肉や生野菜など

例：十分に加熱されていない牛肉・豚肉、よく洗っていない野菜、井戸水や湧水

特徴：食後 12～60 時間で、激しい腹痛・下痢・血が混ざった下痢など（深刻な場合は死に至る）

カンピロバクター

牛や豚・鶏・猫・犬などの腸内におり、この細菌が付着した肉を生で食べたり、加熱不十分で食べることにより発症する。

原因：加熱不十分な肉(特に鶏肉)や飲料水・生野菜など

例：十分に火が通っていない焼鳥、十分に洗っていない野菜、井戸水や湧水

特徴：食後 2～7 日で下痢・発熱・吐き気・腹痛・筋肉痛など

サルモネラ属菌

牛や豚・鶏・猫・犬などの腸内におり、ペットやネズミによって食べ物に菌が付着する場合もある。

原因：加熱不十分な卵・肉・魚など

例：生卵・オムレツ・牛肉のたたき・レバ刺し

特徴：食後 6～48 時間で吐き気・腹痛・下痢・発熱・頭痛など

セレウス菌

河川や土の中など自然界に広く分布している細菌。セレウス菌は熱に強く、加熱による殺菌が難しい。ただし、少量では発症しないため、菌を増やさないことが重要。

原因：土がつきやすい穀類や豆類、香辛料などが主な感染源

例：チャーハンやピラフ等の米飯、スパゲッティや焼きそばなどの麺類、スープ

特徴：嘔吐型（30 分～5 時間後に嘔吐・下痢・腹痛が起きるが軽症）と下痢型（6～15 時間後に腹痛・下痢が現れ、抵抗力の低い人は急性肝不全を起こすこともある）の 2 種類ある

黄色ブドウ球菌

調理する人の手や指に傷があったり、傷口が化膿したりしている場合は、食品を汚染する確率が高くなります。黄色ブドウ球菌は、酸性やアルカリ性の環境でも増殖し、熱にも乾燥にも強いという性質がある。

原因：人の皮膚・鼻や口の中におり、傷やニキビを触った手で食べ物を触ると菌が付くため、加熱後に手作業をする食べ物が原因となる

例：おにぎり、お弁当、巻きずし、調理パン

特徴：食後 30 分～6 時間で、吐き気、腹痛など

ウエルシュ菌

カレー・煮魚・麺の汁・野菜煮付けなどの煮込み料理が原因となることが多い。対策は加熱調理した食品の冷却は速やかに行い、室温で長時間放置しないこと。また、食品を再加熱する場合は、十分に加熱して、早めに食べる。

原因：大量調理等で前日から作り置きしたり、前日の残りを食べる時に起きやすい

例：カレーやシチュー、ビュッフェ形式等の作り置きされた食材や翌日の温め直し調理

特徴：潜伏期間 6～18 時間後（平均 10 時間）、腹痛や下痢など。発症後 1～2 日で回復するが、子供や高齢者は重症化することがある。

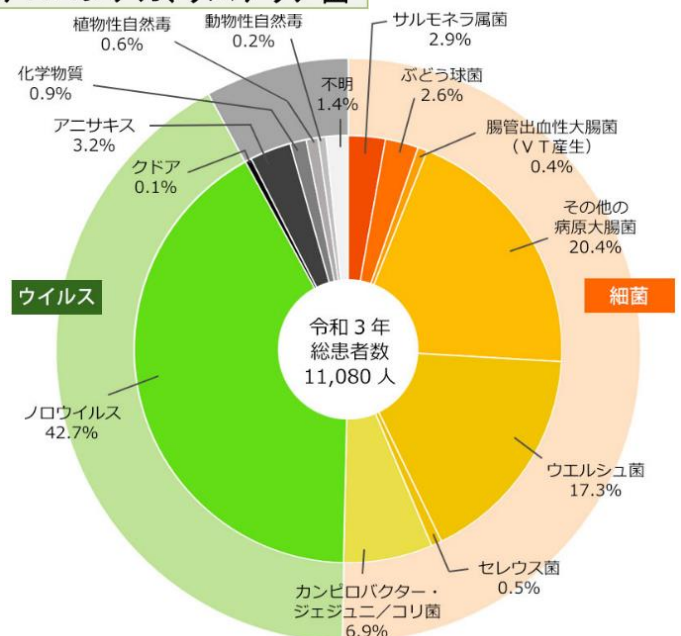
ノロウイルス

ノロウイルスは手指や食品などを介して、口から体内に入ることによって感染し、腸の中で増殖し、おう吐・下痢・腹痛を起こす。汚染された二枚貝などの食品を十分加熱しないまま食べたり、ノロウイルスに汚染された井戸水などを飲んだりして感染するほか、ノロウイルスに感染した人の手やツバ、糞便・おう吐物などを介して二次感染するケースもある。

寄生虫（アニサキス）

アニサキス幼虫は、サバ・アジ・サンマ・カツオ・イワシ・サケ・イカ等の魚介類に寄生する。長さは 2～3cm、幅は 0.5～1mm くらいで、白色の少し太い糸のように見える。アニサキスがいる魚介類を生（不十分な冷凍や加熱物を含む）で食べると、激しい腹痛や吐き気・おう吐などを起こす。予防は鮮度を保ち、目視で確認し、取り除くことが基本。また、冷凍（-20℃で 24 時間以上）と加熱（60℃以上で 1 分）も有効

主な汚染源	微生物の種類
人と動物の糞便	サルモネラ、カンピロバクター 腸管出血性大腸菌、その他病原大腸菌 ウエルシュ菌
人の糞便	ノロウイルス、赤痢菌、コレラ菌
沿岸海水、海産魚介類	腸炎ビブリオ、コレラ菌
二枚貝	ノロウイルス
人の化膿創、手指、鼻汁、乳	黄色ブドウ球菌
土壌	ボツリヌス菌、セレウス菌
乳肉	エルシニア・エンテロコレチカ、リステリア菌



熱中症について

原因と症状

・炎天下だけではない

熱中症は炎天下特有のものではなく、湿気の多い時期や曇りの日、夜間、屋内でも起こる可能性がある。気温が高い、湿度が高い、日差しがきつい、風がない（風通しが悪い）、エアコンがない、急に暑くなったなど、体内の熱を体外にうまく放出できず体を冷やせない状況にあるときは、どんな時・どんな場所でも注意が必要。

・水分と塩分の不足が原因

夏は気温とともに体温も上昇するので、発汗により体温を下げようとする。その汗により水分と塩分が失われることで脱水症になる。脱水症を放っておくと熱中症・熱射病へと進行していく。

●脱水症

水と塩分が汗で失われ、その補給ができない場合に発症。脱水症になると、血液量が減り、血圧が低下。栄養素が体に行き渡らなくなり、老廃物を排泄する力も低下する。また、**食欲不振**などの原因にもなる。さらに、骨や筋肉から電解質が失われることで、**脚がつったり、痺れが起こる**こともある。脱水症が熱中症のさまざまな症状を誘発する。

●熱中症

熱中症とは気温の高い環境で生じる健康障害の総称。体内の水分や塩分などのバランスが崩れ、体温の調節機能が働かなくなり、**体温上昇・頭痛・めまい・倦怠感・けいれんや意識障害、汗が出なくなる**等の症状が起こる。

●熱射病

熱中症のひとつ。脱水症が進み、体温調節する働きが追いつかなくなることで40℃を超える高体温になり、脳の体温調節中枢機能が麻痺して起こる。**意識障害やショック状態になることもある**。熱射病が最も危険で、死亡することも珍しくない。

熱中症の分類と対処法

重症度Ⅰ度 めまい・立ちくらみ・こむら返り・大量の汗

<対処法> 涼しい場所へ移動・安静・水分補給

重症度Ⅱ度 頭痛・吐き気・体がだるい・体に力が入らない・集中力や判断力の低下

<対処法> 涼しい場所へ移動・体を冷やす・安静・十分な水分と塩分を補給。症状が改善されれば受診の必要なし。水分を自力で摂取できない場合や症状に改善が見られない場合は受診が必要。

重症度Ⅲ度 意識障害・けいれん・運動障害

<対処法> 涼しい場所へ移動・安静・体が熱ければ冷やす。ためらうことなく救急車を要請。

予防法

- ①水分をこまめに十分な量をとる（緑茶等のカフェインを含む物は利尿作用があり水分補給にならないため、麦茶や水・スポーツドリンクで補給）※のどが渇いていないから（汗をかいていないから）大丈夫と思いがちだが、既に軽い脱水を起こしている場合もある
- ②塩分を適度にとる（塩飴・塩タブレット等）
※水分・塩分は数日前から影響するため、日頃から心がける
- ③十分な睡眠をとる
- ④気温と湿度を気にする（熱中症指数などを参考に）
- ⑤室内を涼しくする ※冷やし過ぎると外に出た時に体調を崩しやすいので注意
- ⑥日差しをよけて（帽子をかぶる・日陰で活動する等）休憩をまめに取る

応急処置法

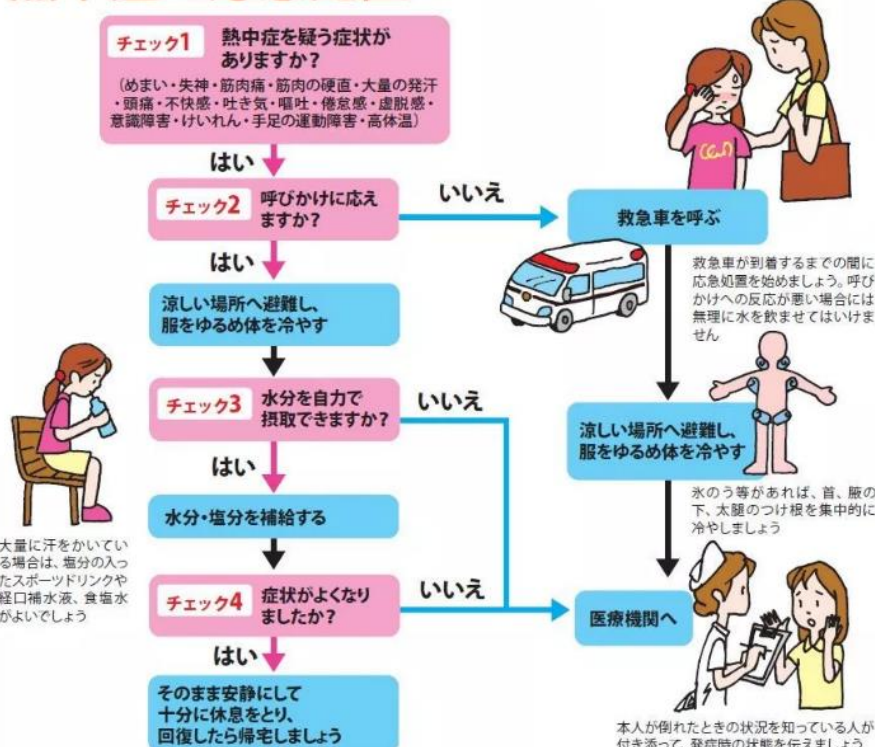
- ①涼しくて、風通りのよい日陰に移動する
- ②服を緩めて、体（首周り・脇の下・鼠径部など）を冷やして体温を下げる
※とにかく早く体温を下げるのが大切
- ③塩分や水分を補給する ※水分ばかり取ると電解質バランスが崩れて体調不良を起こす
- ④症状が治まる様子がないようならすぐに病院へ行く

その他

こどもは熱中症に気付かず、ただ「眠い」「疲れた」等と言う場合があるため、こどもが不調を訴えた場合には単なる体調不良と判断せずに症状を詳しく聴取し、体温を測るなどして、熱中症を見逃さないよう心掛ける。

熱中症の応急処置

もし、あなたのまわりの人が熱中症になってしまったら……。
落ち着いて、状況確かめて対処しましょう。最初の措置が肝心です。



🐝 危険な生き物 🐝

ハチ

ミツバチやアシナガバチ・クマバチ等は何もしなければ襲ってきませんが、スズメバチは攻撃性が極めて高く近寄るだけで襲ってくるため気を付ける。



毒蛇

マムシ・ヤマカガシ・アオダイショウがおり、いずれも大人しいが、草むらに入ったり夜間に誤って踏むと噛まれるため注意



アブ

体長1~3cm程で、皮膚を噛み切って吸血するため、腫れやかゆみが数週間~数か月続くことも…。

ハチとの見分け方

- ①吸血するためしつこく近寄ってくる。
- ②目が大きく、体にくびれがなくハエに似ている。
- ③アブの色は黒色ととても薄い黄色（ほぼ白色）



ヒル

知らないうちに服の中や靴の中に入っているのが、ジメジメした森の中などを歩いた後は足元や服にヒルがついていないか確認する



基本的な対処方法

黒い服を避ける【ハチ】

ハチやブヨは、黒を狙って攻撃します。さらに黒は熱を吸収するため、体温が上がり蚊を呼び寄せることも。ブヨは赤や青にも反応するので、熱を吸収しにくい白系の服がオススメ！

足を出さない【すべて】

足の臭いを好むため、蚊が多いところへ行く場合には暑いのは我慢して、長ズボンで足をガードしたり、虫除けスプレーをかけましょう。

木の真下を避け、草むらに入らない【すべて】

木の下では毛虫などが落ちてくる場合があります。また、草むらにはマダニがいることもあるので、そういった場所は避け、肌の露出を減らして防御しましょう。

ポイズンリムーバーを使う【ハチ・ヘビ・アブ】

刺されたらすぐに、リムーバーで毒を吸い出して、水でよく流す。アブのように皮膚を噛み切ってくる虫に刺された場合には、傷口から毒が吸い出せるので効果が高い。



氷で冷やす【アブ】

毒を吸い出した後に氷で冷やすのもかゆみを抑える効果あり。掻きたくなるが、掻くと腫れも引かず、かゆみも増してしまうので我慢する。

軟膏を塗る【ハチ・アブ・ヒル・ムカデ】

ポイズンリムーバーで毒を吸い出した後に冷水でよく洗い流し、ヒスタミン軟膏（ムヒS）やステロイド軟膏（ムヒアルファEX等）を塗る

靴の中を確認する【ヒル・ムカデ】

靴を履いたら、中からムカデが！という事も多いので、履く前には十分注意する。

■ おやみに消毒しない

虫の種類にもよりますが、消毒によってばい菌に対抗してくれる良い菌まで殺してしまう場合があります。毒を出して水で流したら、馬油やワセリンなどをつけて様子を見ましょう。低刺激なので、お子さんにも安心して使えます。

■ ハッカ油でアブ除けスプレーを作る【アブ】

虫除けスプレーが効きにくい場合アブに効果的なのがハッカ油。ハッカ油とエタノールを混ぜて作れる。



■ 病院へ行く【ヘビ・ハチ・マダニ】

ヘビやハチに刺された場合は一刻を争うため、まずはヘビやハチに刺されたことが分かった時点ですぐに救急車を呼ぶ。その後へコアスタッフ等へ報告するようにしてください。

ハチ

ハチ毒はアレルギーがあると 10~20%の確率で全身の蕁麻疹・嘔吐・浮腫・呼吸困難等のアナフィラキシー（短時間に全身にあらわれる 激しい急性のアレルギー反応）を引き起こし、そのうち数%が血圧低下・意識障害等のアナフィラキシーショックを起こすと言われている（2回目に刺された場合以外にもともとアレルギーを持っている場合もあり、初回だから安全とは限らない）。ハチ刺され後、数分~15分でアナフィラキシーショックを起こし、その後15分程で心停止を起こすため、ショック症状を起こす前に救急車を呼ばないと間に合わない（はるの山の村の場合、救急車が来るまで20~30分かかる）



・スズメバチに刺された場合

二次被害を防ぐためまずはハチから離れる（ハチ毒は仲間呼ぶ効果あり）→**すぐに119通報して救急車を呼ぶ**→コアスタッフへ報告→**15分以内に流水で洗いながら毒を絞り出して冷やす**（口吸うを危ないため**ポイズンリムーバー**や**指で毒を吸い出す**）→抗ヒスタミン軟膏（ムヒS）・ステロイド軟膏（ムヒアルファEX）を塗る（エピペンを持っている場合は使用する）→救急車が来るまでショック体位（足を15~30cmほど高くする姿勢）で安静（嘔吐してもいいよう顔は横に向け）にし、こどもの呼吸管理・アナフィラキシー症状が出ないか見守る

※既にアナフィラキシー症状が出ているなど緊急の場合は藤サイト（レク棟）へドクターヘリを呼ぶ



	スズメバチ	アシナガバチ
見た目		
巣		

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
女王バチ捕獲時期			働きバチ捕獲時期				
 巣作り防止に効果的			 危険度最大!				
女王バチが1匹で巣作りを開始します。女王バチを捕獲することで、夏から秋の巣作りを防ぐことができます。			だんだんと働きバチの数が増え、巣が大きくなり攻撃性も高くなる時期です。効果的にハチを退治してハチに遭遇する危険を減らしましょう。捕獲量が多くなる時期なので、複数個の設置もおすすめです。				

毒へび

・へびの種類

マムシ・・・体長 40～60cm で、大人しいがハブより強い毒をもつ

ヤマカガシ・・・体長 60～160cm で、大人しいがマムシの数倍の毒をもつ

アオダイショウ・・・体長 1～2.5m と大きいが大変大人しくて毒はない

・マムシの特徴

夜行性といわれているが、昼間でも半日陰の雑木林やじめじめした草むらでは餌を求めて活動したり、木の根や岩陰に潜んだりしていることがある。頭は先端がとがっていて三角形に近い形になっている。首が細い割に胴体はかなり太く寸胴で、お尻に近づくと急に体が細くなっている。

・マムシの毒（致死率 1%以下）

咬まれるとしばらくして激痛が襲い内出血が拡大する。出血のため患部は腫れ、ひどい場合には循環障害のため筋肉細胞が壊死を起こしてダメージを深めていく。手当が遅れたり、咬まれた部位や注入毒量によっては循環器全体や腎臓にも障害が広がって重篤な場合は死に至る。マムシの出血毒は神経毒(マムシにも少し含まれる)に比べて致死率は低いが、血管や筋肉の細胞を破壊するために激しく痛み、筋肉壊死を引き起こすため、一命をとりとめても手足切断や後遺症が残る場合がある。

・毒蛇に咬まれた場合の対処法

毒のまわりは早くないのでまずはコアスタッフへ報告（可能であればへびの特徴を確認する）→コアスタッフが車で病院へ連れていく（急を要する場合は救急車を呼ぶ）→傷口をよく洗い安静にする・排尿を促すため水分を十分にとる→こどもの様子をよく観察

縛らない

以前は良いとされていたが、縛ってもほとんど効果はなく、逆に出血毒を滞留させることで筋肉壊死を酷くするなどの悪影響が指摘されている

慌てない

毒のまわりはそれほど早くないので、まずは落ち着いて行動。なるべく安静を保つようにして病院に行き治療を受ける。

どんな蛇に噛まれたのか特徴等を覚えておく

診断の際に役立つため、危険のない範囲で蛇の特徴を捉えておくとい



! マダニ !

・マダニとは

蚊と同じく動物の血を吸い、3~10mmとイエダニより大きく肉眼で見ることができる。マダニ自体に毒はないが、まれに病気を保有しているマダニに噛まれると重症熱性血小板減少症候群（SFTS）や日本紅斑熱、ライム病等の致死性の感染症にかかることがある。

・マダニに咬まれないように注意しよう

マダニの活動は春から秋が盛んなので、咬まれる危険性が高まる。草むらや藪など、マダニが多く生息する場所に入る場合には、長袖・長ズボン(ズボンの裾は靴下や長靴の中に入れる)、サンダルは避けて靴を履く、帽子・手袋を着用し、首にタオルを巻くなど、**肌の露出を少なくすることが大切**。服はマダニを目視で確認しやすい明るい色がオススメ。屋外活動後はマダニに咬まれていないか確認する（特に、ワキの下、足の付け根、手首、ひざの裏、胸の下、髪の毛の中など）

・マダニに刺された時の対処法とは？

マダニに咬まれるとチクリとした痛みと痒みがある。そして、赤く内出血のようになる。マダニは人や動物にとりつくと、皮膚にしっかりと口を突き刺し、**長時間(数日~10日以上)吸血する**。吸血中の場合、皮膚にマダニの口先が食い込んでいるため、無理に引っ張るとマダニの口先が皮膚に残り、手術(皮膚の切開)が必要となったり、感染症リスクが上がるため**咬まれたら自分で取らずに皮膚科を受診する**。

・マダニの取り方とは？

マダニに咬まれたら皮膚科を受診するのが一番！

どうしても自分で取る場合は、決して力任せに引っ張らない。後で炎症や感染症を引き起こさないよう、マダニの口先などが一切残らないようにマダニが自分からかみつきを止めて外れることが重要。無理に引っ張ったり、噛みついたままマダニが死ぬことだけは避ける。うまくマダニが外れても、傷口や感染症のチェックをするために皮膚科を受診すると安心。

✚ ワセリンで窒息させる

かみついている部分にワセリンを塗るとダニが苦しくなり外れる

✚ アルコールや虫よけスプレー・殺虫剤を使用する

イソジンや虫よけスプレーを綿棒やコットンパフなどに染み込ませて、マダニに近づける



吸血前のマダニ
(約3mm)



吸血後のマダニ
(約10mm)



1. マダニの生息場所



Kana. S.

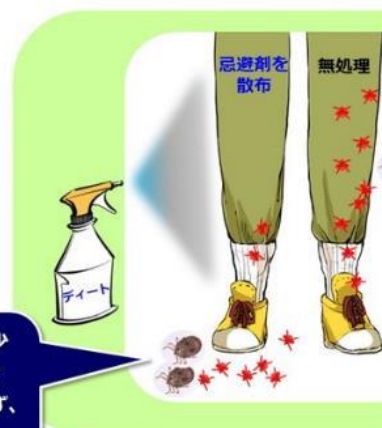
マダニは、シカやイノシシ、野ウサギなどの野生動物が出没する環境に多く生息しています。

マダニは、民家の裏山や裏庭、畑、あぜ道などにも生息しています。

4. 忌避剤の効果

マダニに対する忌避剤(虫よけ剤)が、2013年から新たに認可されました。現在は、ディート、イカリジンの2種類の有効成分の忌避剤が市販されています。

忌避剤の使用でマダニの付着数は減少しますが、マダニの付着を完全に防ぐわけではありません。忌避剤を過信せず、様々な防護手段と組み合わせて対策を取ってください。



5. 国内で入手できる忌避剤の種類と特徴

忌避剤	有効成分含有率	分類	効力持続時間	注意事項	特徴
ディート	5~10%	防除用医薬部外品	1~2時間	6ヶ月未満児には使用禁止	<ul style="list-style-type: none"> 独特の匂い べたつき感 プラスチック・化学繊維・皮革を腐食することもある
	12%	防除用医薬品	約3時間		
	高濃度製剤 30%	防除用医薬品	約6時間	12歳未満は使用禁止	
イカリジン	5%	防除用医薬部外品	~6時間		
	高濃度製剤 15%	防除用医薬品	6~8時間		

2. マダニから身を守る服装

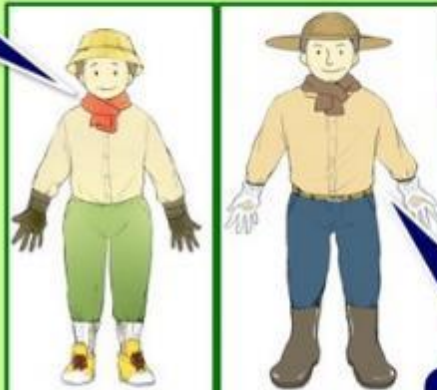
野外では、腕・足・首など、肌の露出を少なくしましょう！

首にはタオルを巻くか、ハイネックのシャツを着用しましょう。



半ズボンやサンダル履きは不適當です！

ハイキングなどで山林に入る場合は、ズボンの裾に靴下を被せましょう。



シャツの袖口は軍手や手袋の中に入れてみましょう。



シャツの裾はズボンの中に入れてみましょう。



農作業や草刈などではズボンの裾は長靴の中に入れてみましょう。

3. マダニから身を守る方法

上着や作業着は、家の中に持ち込まないようにしましょう。



屋外活動後は、シャワーや入浴で、ダニが付いていないかチェックしましょう。



ガムテープを使って服に付いたダニを取り除く方法も効果的です。

ダニ類の多くは、長時間（10日間以上のこともある）吸血します。吸血中のマダニを無理に取り除こうとすると、マダニの口器が皮膚の中に残り化膿することがあるので、皮膚科等の医療機関で、適切な処置（マダニの除去や消毒など）を受けて下さい。

マダニに咬まれたら、数週間程度は体調の変化に注意し、発熱等の症状が認められた場合は、医療機関で診察を受けて下さい。

参考資料 2) マダニ媒介SFTSとは

重症熱性血小板減少症候群 (Sever fever with thrombocytopenia syndrome: SFTS)

これまでに、**中国・日本・韓国**でSFTSの患者が報告がされています。中国では**フタトゲチマダニ**と**オウシマダニ**からウイルスが見つかっています。



ウイルスの潜伏期間は(マダニに咬まれてから) **6日~2週間**とされています。

2016年は、西日本を中心とした21府県から届出されています。()内は発症数



SFTS患者報告基本情報

合計		232名
性別	男	111
	女	121
年齢	中央値	73歳
	~20代	2
	30代	4
	40代	4
	50代	15
	60代	66
	70代	65
	80代	70
	90代	36

(2017年4月26日 現在)

2013年1月1日以降に報告された患者(合計232名)です。

SFTS患者は**5~8月**に多く発症しています。

マダニが媒介する感染症

()内は病原体の種類

日本紅斑熱 (リケッチア)

Q熱 (リケッチア)

ライム病 (スピロヘータ)

ボレリア症 (細菌)

野兔病 (細菌)

重症熱性血小板減少症候群 SFTS

(フレボウイルス)

ダニ媒介性脳炎 (フラビウイルス)

キャサヌル森林病 (フラビウイルス)

クリミア・コンゴ出血熱

(ナイロウイルス)

.....など

重症熱性血小板減少症候群(SFTS)

感染経路：SFTS ウイルスを保有するマダニに咬まれる。患者体液(血液等)との接触。

潜伏期：6~14日

症状：発熱・吐き気・嘔吐・腹痛・下痢・下血・筋肉痛・神経症状・出血症状等。 **致死率 10~30%**

治療法：対症療法のみで有効な薬剤やワクチンなどはない。

※マダニに噛まれると致死率 10~30%で死ぬ訳ではなく、噛まれたマダニが SFTS ウイルスを保有しており、かつ噛まれた際に感染した場合なので、過度に心配しないこと。

ムカデ



ムカデにかまれた時の症状

- ・激しい^{とつづ}疼痛 ・痺れ ・赤く腫れるなどの炎症 ・痒み

痛みが強く、腫れもあり熱や吐き気など具合が悪くなるようならすぐ病院に行く。**ムカデの毒はハチ毒と成分が似ており、アナフィラキシーショックを起こす可能性がある。**

噛まれたとき絶対にしてはいけないこと

- ・冷やさない

ムカデの毒に対しては厳禁！冷やすと痛みが増し、痙攣や気絶する事もある。



- ・ぬるいお湯（40℃程度）で温めない

温熱療法で温めると効果があるが、40℃程度のぬるいお湯だと、逆に毒が活性化されて症状が酷くなる（ムカデ毒は43℃以上でないとい失活しない）また噛まれて時間が経っている場合も温めるのは逆効果

- ・毒を口で吸い出さない（ポイズンリムーバーはOK）

ムカデはハチのように毒を注入するのではなく、頭部にある大顎や肢の先の爪で皮膚に傷をつけ、大腮（おおえら）の根元の毒腺から毒を塗り付ける。毒を口で吸い出すと、口の中に毒を入れ、口内の腫れ・悪寒・嘔吐・気道閉塞などの危険性があるので絶対せず、必ずポイズンリムーバーを使用する。

ムカデに噛まれたときの応急処置

- ・すぐにお湯で洗い流す（ムカデに噛まれてすぐの応急措置。時間が経過してからは逆効果）

噛むと同時に毒を放出するため、噛まれたところにいきなり薬を塗らずにまずは毒を洗い流す。**ムカデの毒は熱に弱く、43～46℃の熱で失活するため、ヤケドしない程度の熱いお湯で5分以上洗い流す。**洗面器などにお湯をためて行くと高温を維持できないため必ずシャワーで洗い流し続ける。途中で、弱酸性以外のシャンプーや石鹸で洗い流すとより効果がある。

- ・病院へ行く（必要に応じて）

ムカデに噛まれた場合は「皮膚科」を受診する。ムカデ毒は、ハチ毒と同じで急激にアレルギー症状が出る場合がある。噛まれた箇所の痛み以外に、悪寒・頭痛・吐き気などの症状が出た場合は速やかに病院に行く。特に抵抗力のない小さな子供はショック状態になり、重症になる場合もあるので注意が必要。

- ・ムカデ対策

- ✚ 蚊取り線香・・・室内または室外のムカデが侵入経路に使いそうな部分に置く
- ✚ ハーブ・・・スプレーボトルに水とハーブのエキスを数滴たらし戸や窓の隙間に散布する
- ✚ 防虫スプレー・・・網戸用の防虫スプレーをムカデが侵入しやすい下側の隙間重心的に散布する
- ✚ ヒノキスプレー・・・侵入経路になりそうなところに散布する
- ✚ ^{しょうのう}樟脳（衣服などに使う防虫剤）